

受 験 番 号				氏 名

平成 2 0 年度第 2 回登録販売者試験問題（午前）

（平成 21 年 2 月 1 日）

兵 庫 県

指示があるまで開いてはいけません。

【注意事項】

- 1 問題及び解答用紙に、受験番号(右寄せで記入)と氏名を記入してください。

(記入例)

受 験 番 号				氏 名
		4	5	兵庫 太郎

- 2 試験時間は、午前 10 時から 12 時までの 120 分間です。
- 3 問題は、2 項目 60 問で、1 ~ 25 ページまであります。
- 4 解答は、解答用紙の解答欄に鉛筆等で記入してください。
- 5 解答は、該当する答の番号を 1 つだけ記入してください。
2 つ以上記入したり、解答欄以外に記入したものは、採点されません。
- 6 解答を修正した場合は、必ず消しゴムであとが残らないように完全に消してください。
- 7 この試験の薬事法に係る記述は、薬事法の一部を改正する法律(平成 18 年法律第 69 号)による改正後の薬事法に基づいています。
- 8 この試験の医薬品の成分の表記は、厚生労働省作成の「試験問題の作成に関する手引き(平成 19 年 8 月)」に基づいています。

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問 1

医薬品の本質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、効能効果、副作用等の必要な情報が適切に伝達されることを通じて、使用者が適切に使用することにより、その役割を十分発揮するものである。
- b 医薬品は、市販後においてもその有効性、安全性等の確認が行われ、その結果、製品の成分分量、効能効果等が変更になった場合には、それが添付文書や製品表示の記載に反映されている。
- c 医薬品は、製造販売業者による製品回収等の措置がなされることもあるので、医薬品の販売に従事する専門家は、製造販売業者等からの情報に日頃から留意しておく必要がある。
- d 本来、医薬品は、人体にとって異物であり、また人体に及ぼす作用のすべてが解明されていないため、必ずしも期待される有益な効果のみをもたらすとは限らず、好ましくない反応を生じる場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	正	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	誤

問 2

医薬品によるアレルギーに関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 医薬品に含まれる添加物は、アレルギーを引き起こす原因物質にはならない。
- 2 アレルギーには遺伝的な要素はないので、近い親族にアレルギー体質の人がいても注意をする必要はない。
- 3 医薬品によるアレルギーは内服薬だけに起こることであり、外用薬で引き起こされることはない。
- 4 普段は医薬品にアレルギーを起こしたことがない人でも、病気等に対する抵抗力が低下している状態などの場合には、アレルギーを生じることがある。

問3

医薬品の副作用に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品の副作用は、「薬理作用による副作用」と「アレルギー(過敏反応)」に大別される。
- b 副作用とは、日常生活に支障を来す程度の健康被害を生じる重大なものをいい、眠気や口渇等比較的良好に見られるものは含まれない。
- c 一般用医薬品の使用による副作用の兆候が現れたときには、基本的にその医薬品の使用を中止することとされている。
- d 副作用は、直ちに明確な自覚症状として現れるので、容易に異変を自覚できる。

1 (a、 c) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (b、 d)

問4

アレルギー等に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 鶏卵を原材料としている医薬品はないので、鶏卵にアレルギーがある人は医薬品を使用するうえでアレルギーに注意する必要はない。
- b 免疫機構が過敏に反応して、好ましくない症状が引き起こされることがある。
- c 医薬品を使用してアレルギーを起こしたことがある人は、その原因となった医薬品には免疫ができていないので、再びアレルギーを起こすことはない。
- d アレルギーは、医薬品の薬理作用とは関係なく起こりうるものである。

1 (a、 c) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (b、 d)

問5

医薬品の特性等に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品を本来の目的以外の意図で、定められた用量を意図的に超えて服用すると、過剰摂取による急性中毒等を生じる危険性が高くなる。
- b 医薬品の習慣性とは、明確な依存を形成するほどではないものの、習慣的に使用することにつながりやすい性質をいう。
- c 医薬品の乱用によって、一度、薬物依存が形成されると、そこから離脱することは容易ではない。
- d 一般用医薬品には、習慣性のある成分を含んでいるものはあるが、依存性のある成分を含んでいるものはない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	正	正
4	正	正	正	誤
5	正	正	誤	誤

問6

医薬品と、他の医薬品や食品との関係に関する記述について、()の中に入れるべき最も適切な字句はどれか。

複数の医薬品を併用した場合、又は特定の食品と一緒に摂取した場合に、医薬品の作用が増強したり、減弱したりすることを()という。

- 1 薬理作用
- 2 相互作用
- 3 プラセボ効果
- 4 増減作用
- 5 過敏反応

問7

医薬品と、他の医薬品や食品との関係に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品では、薬効群が異なれば、成分や作用が重複することはない。
- b 生薬成分が配合された医薬品と生薬成分を含む食品をあわせて摂取すると、医薬品の効き目や副作用を増強させることがある。
- c 酒類(アルコール)をよく摂取する者では、肝臓の代謝機能が高まっていることが多く、アセトアミノフェンなどでは、十分な薬効が得られなくなることがある。
- d カフェインはコーヒー等の食品にも含まれるが、カフェインを含む医薬品と一緒に使用しても過剰摂取となることはない。

1 (a、 c) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (b、 d)

問8

小児等の医薬品使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 小児は大人に比べ、循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しやすいため、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起こしやすい。
- b 成人用の医薬品を小児に使用する場合は、その年齢に応じて量を減らして使用すればよい。
- c 医薬品の使用上の注意等において、乳児、幼児、小児という場合には、おおよその目安として、乳児は1歳未満、幼児は5歳未満、小児は12歳未満とされている。
- d 医薬品によっては、形状等が小児向けに作られていないため、小児に対して使用しないことなどの注意を促している場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	正	正	誤	誤

問 9

小児等の医薬品使用に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 小児は、肝臓や腎臓の機能が未発達であるため、医薬品の作用が強く出過ぎたり、副作用がより強く出たりすることがある。
- 2 乳幼児の一般用医薬品による誤飲・誤用事故の場合には、応急処置等について専門家に相談することが望ましい。
- 3 小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率が低い。
- 4 乳児は医薬品の影響を受けやすく、また、状態が急変しやすいので、一般用医薬品による対処は最小限とし、医師の診療を受けることを優先することが望ましい。

問 10

高齢者の医薬品使用に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 高齢者の基礎体力や生理機能の衰えの度合いには個人差が少ないので、年齢によって、どの程度副作用を生じるリスクが増大しているかは、容易に判断できる。
- b 一般に高齢者は生理機能が衰えつつあり、特に、肝臓や腎臓の機能が低下していると医薬品の作用が強く現れやすく、若年時と比べて副作用を生じるリスクが高くなる。
- c 高齢者は持病(基礎疾患)を抱えていることが多いが、一般用医薬品の使用については、定められた用量の範囲内で使用すれば、持病の症状が悪化することはない。
- d 高齢者は喉の^{のど}筋肉が衰えて飲食物を飲み込む力が弱まっている場合があり、内服薬を使用する際に喉に詰まらせやすいので注意が必要である。

- 1 (a、 c) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (b、 d)

問 1 1

妊婦、妊娠していると思われる女性及び授乳婦の医薬品使用に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 授乳婦が医薬品を使用する場合、通常の用量であれば、乳汁中に移行した医薬品の成分が乳幼児に好ましくない影響を与えることはない。
- 2 一般用医薬品においては、多くの場合、妊婦が使用した場合の安全性に関する評価が困難であるので、使用上の注意において、妊婦の使用について「相談すること」としているものが多い。
- 3 ビタミンA含有製剤は、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると、胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされている。
- 4 母体が医薬品を使用した場合、胎盤関門によって、どの程度医薬品の成分の胎児への移行が防御されるかは未解明のことが少なくない。

問 1 2

医療機関・薬局で交付された薬剤を使用している人から一般用医薬品との併用についての相談を受けた場合、登録販売者が行う対応として最も適切なものはどれか。

- 1 医療機関・薬局で交付された医薬品の服用後、2時間程度の間隔をあけて一般用医薬品を服用するよう説明する。
- 2 一般用医薬品を服用している間は、医療機関・薬局で交付された医薬品の服用を中断するよう説明する。
- 3 医療機関・薬局で交付された薬剤を処方した医師・歯科医師又は調剤を行った薬剤師に相談するよう説明する。
- 4 一般用医薬品は作用が緩和なので、併用しても問題ないと説明する。

問 1 3

医薬品の品質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品に配合される添加物成分は、高温や多湿、光等による品質の劣化は起こさない。
- b 一般用医薬品は、購入後すぐに使用されるとは限らないので、使用期限から十分な余裕をもって販売等がなされることが重要である。
- c 医薬品が保管・陳列される場所は、医薬品の品質が十分保持される温度や湿度に留意すればよく、清潔性を保つことは必要ではない。
- d 医薬品は、適切な保管・陳列がなされなければ、医薬品の効き目が低下したり、人体に好ましくない作用をもたらす物質を生じることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	正
3	正	正	正	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	正	誤	正

問 1 4

平成 14 年 11 月に出された一般用医薬品承認審査合理化等検討会中間報告書「セルフメディケーションにおける一般用医薬品のあり方について」において、一般用医薬品の役割とされていないものはどれか。

- 1 衛生害虫の防除
- 2 生活の質の改善・向上
- 3 健康状態の自己検査
- 4 健康の維持・増進
- 5 生活習慣病の治療

問 1 5

セルフメディケーションや一般用医薬品の使用等に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 高熱や激しい腹痛がある場合など症状が重い場合でも、まずは、その症状に応じた一般用医薬品を使用することが適切な対処方法である。
- b WHO(世界保健機関)によれば、セルフメディケーションとは、「自分自身の健康に責任を持ち、身体の不調は、その程度に関係なく自分で手当てする」こととされている。
- c 一般用医薬品で対処可能な範囲は、乳幼児や妊婦等、医薬品を使用する人によって変わってくるものである。
- d 一般用医薬品の販売等に従事する専門家は、一般用医薬品の販売を優先すべきであり、医療機関の受診を勧めたり、医薬品の使用によらない対処を勧めるべきではない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	正	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

問 1 6

一般用医薬品の販売等に従事する専門家が、一般用医薬品を販売する際の対応に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 購入者等が自分自身や家族の健康に対する責任感を持ち、適切な医薬品を選択し、適正に使用しようとするよう働きかけることが重要である。
- 2 情報提供を行う場合は、説明した内容が購入者等にどう理解され、行動に反映されているかなどの実情を把握しながら行うことにより、その実効性が高まる。
- 3 購入者等が医薬品を使用する本人であっても、その人の状態や様子全般から得られる情報は、状況把握の手がかりとはならない。
- 4 すぐに医薬品を使用する状況にない場合は、購入者等に対して、実際に使用する際に、改めて添付文書等に目を通すよう促すことが重要である。

問 1 7

医薬品の副作用等や薬害に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の販売等に従事する専門家は、医薬品の情報提供、副作用報告等を通じて、医薬品の副作用等による健康被害の拡大防止に関する責務の一端を担っている。
- b ヒト免疫不全ウイルス(H I V)訴訟やクロイツフェルト・ヤコブ病(C J D)訴訟を契機として、医薬品副作用被害救済制度が創設された。
- c ヒト免疫不全ウイルス(H I V)訴訟の和解を踏まえ、血液製剤の安全確保対策として検査や献血時の問診の強化が図られた。
- d 医薬品の副作用被害やいわゆる薬害は、医薬品が十分注意して使用されたとしても起こりうるものである。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	正	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

問 1 8

スモン訴訟に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

スモン訴訟とは、(a)として販売されていた(b)を使用したことにより、亜急性^{せきずい}脊髄視神経症に罹患^りしたことに対する損害賠償訴訟であり、1971 年 5 月に(c)を被告として提訴された。

	a	b	c
1	整腸剤	キノホルム製剤	国及び製薬企業
2	整腸剤	キノホルム製剤	製薬企業
3	催眠鎮静剤	スモン	国及び製薬企業
4	催眠鎮静剤	スモン	製薬企業
5	催眠鎮静剤	キノホルム製剤	国及び製薬企業

問 19

サリドマイドに関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 サリドマイドは、催眠鎮静成分として承認されたが、その鎮静作用を目的として、胃腸薬にも配合された。
- 2 サリドマイドは、副作用として血管新生を妨げる作用があり、その作用が胎児に影響を与え、四肢欠損等の先天異常が発生した。
- 3 西ドイツでサリドマイド製剤の催奇形性についての警告が発せられると同時に、我が国でもすぐに販売停止及び回収措置を行い、被害拡大は抑えられた。
- 4 サリドマイドによる薬害事件は、世界的に問題となったため、WHO(世界保健機関)加盟国を中心に市販後の副作用情報の収集の重要性が改めて認識され、各国における副作用情報の収集体制の整備が図られることとなった。

問 20

クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a CJD訴訟とは、脳外科手術等に用いられていたヒト乾燥硬膜を介してクロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)に罹患した^りことに対する損害賠償訴訟である。
- b ウイルスの一種であるプリオンが原因とされる。
- c プリオンが脳の組織に感染し、次第に認知症に類似した症状が現れるが、死に至るような重篤な症状は現れない。
- d CJD訴訟では、国、輸入販売業者及び製造業者が被告として提訴された。

- 1 (a、 c) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (b、 d)

主な医薬品とその作用

問1

かぜに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a かぜの症状は多岐にわたるので、症状にかかわらず総合感冒薬の選択が最適である。
- b 俗に「お腹にくるかぜ」と呼ばれる嘔吐^{おう}や下痢などの症状は、典型的なかぜの症状の一つである。
- c リウマチ熱は、発熱や関節痛など、かぜとよく似た症状を示すことがある。
- d 一般的なかぜの症状は、通常、数日から1週間程度で自然寛解することが多い。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

問2

かぜ薬に用いられる主な生薬成分のうち、解熱作用以外の目的で配合されるものはどれか。

- 1 ジリュウ
- 2 ゴオウ
- 3 カッコン
- 4 セネガ
- 5 サイコ

問3

かぜ薬に配合されている成分に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 ブロムワレリル尿素は依存性がある。
- 2 カミツレには、アズレンスルホン酸ナトリウムが含まれている。
- 3 ケイ酸アルミニウム、酸化マグネシウム等の制酸成分が配合される場合がある。
- 4 カフェインを配合することにより、抗ヒスタミン成分の眠気の副作用が解消される。

問4

かぜ薬に配合されている成分とその配合目的の組み合わせについて、正しいものはどれか。

[成分]	[配合目的]
1 エテンザミド	気管・気管支を拡げる
2 セラペプターゼ	発熱を鎮める
3 トラネキサム酸	炎症を鎮め、腫れを和らげる
4 臭化水素酸デキストロメトルファン	痰の切れを良くする

問5

カフェインに関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 胃液の分泌を抑制する働きが強いため、食欲不振や悪心が現れることがある。
- 2 脳を興奮させる作用があり、その副作用で振戦やめまいを生じることがある。
- 3 母乳を与える女性が連用すると、乳児に頻脈を引き起こす可能性がある。
- 4 反復して摂取すると、習慣性になりやすい性質がある。

問6

鎮咳去痰薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 塩酸エチルシステインは、痰の中の粘性蛋白質に作用して、その粘りけを増加させる。
- b マレイン酸クロルフェニラミンのような抗ヒスタミン成分が配合されることはない。
- c 塩酸メチルエフェドリンは、副交感神経を刺激して気管支を拡張させる。
- d 鎮咳去痰薬は、気道の炎症を和らげる成分と、発熱を鎮める成分と一緒に配合されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	誤	誤
5	誤	正	誤	正

問7

リン酸コデインとリン酸ジヒドロコデインに関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 副作用で、便秘になることがある。
- 2 長期連用により、倦怠感や虚脱感が現れることがある。
- 3 胎盤関門を通過しないので、妊婦にも比較的安全に使用できる。
- 4 内服液剤では、咳を抑えるという本来の目的以外の意図で不適正に服用されることがある。

問8

マオウに関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 麻黄湯はマオウの含有量が多いため、体の虚弱な人には不向きである。
- 2 交感神経を刺激する作用はあるが、気管支を拡張させる作用はない。
- 3 薬効が穏やかなため、高血圧や糖尿病の人に適している。
- 4 長期服用では、偽アルドステロン症を生じる。

問9

桔梗湯、白虎加人参湯、響声破笛丸に共通する事柄に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 構成する生薬の成分中にグリチルリチン酸が含まれる。
- b 喉の痛みを鎮めるのには用いない。
- c 生後3か月未満の乳児には使用しない。
- d 胃腸が弱くても安心して服用できる。

- 1 (a、 c) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (b、 d)

問 1 0

胃腸に作用する薬に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 制酸成分を主体とする胃腸薬については、アルカリ度の高い食品と一緒に使用すると、胃酸に対する中和作用が低下すると考えられる。
- 2 オウバク、オウレンなどの生薬成分が配合された散剤の健胃薬は、オブラートで包んで服用すると、より効果が発揮される。
- 3 利胆作用があるウルソデオキシコール酸は、胎児毒性の可能性があるので、妊婦又は妊娠していると思われる女性は使用を避けることが望ましい。
- 4 胃液分泌抑制成分である塩酸ピレンゼピンは、消化管の運動を抑制することで、胃液の分泌を抑える作用を示す。

問 1 1

次の医薬品成分と、使用を避けることが望ましい人に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	[医薬品成分]	[使用を避けることが望ましい人]
a	タンニン酸アルブミン ……	牛乳アレルギーがある人
b	ヒマシ油 ……………	3歳未満の乳幼児
c	鉄製剤 ……………	妊婦
d	センナ ……………	授乳中の人

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	誤	正

問 1 2

収斂作用のある次没食子酸ビスマス等のビスマスを含む成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 腸内で発生した有毒物質を分解する作用があるので、細菌性の下痢や食中毒のときに使用される。
- b 長期連用による副作用の報告があるので、1週間以上継続して使用しないこととされている。
- c 胎盤関門を通過しないので、妊婦にも安心して使用できる。
- d 胃潰瘍や十二指腸潰瘍の診断を受けた人では、損傷した粘膜からビスマスの吸収が高まるおそれがある。

1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問 1 3

駆虫薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 駆虫薬は腸管内に生息する虫体のみ作用し、虫卵には駆虫作用は及ばない。
- b 複数の駆虫薬を併用した方が、駆虫効果は早くかつ高くなることが多い。
- c 回虫や蟯虫は、衣食を共にする家族全員が感染している可能性がある。
- d 駆虫薬は、副作用軽減のため、空腹時の使用は避けた方がよい。

1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問 1 4

コレステロールに関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a コレステロールは、細胞の構成成分である。
- b コレステロールは、副腎皮質ホルモン等の生理活性物質の産生に重要である。
- c 低密度リポ蛋白質は、コレステロールを末梢組織から肝臓に運ぶ。
- d 高密度リポ蛋白質は、コレステロールを肝臓から末梢組織に運ぶ。

1 (a、 b) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (c、 d)

問 1 5

鉄欠乏状態に陥りやすい人に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 日常の食事から鉄分の摂取が不足している人
- b 消化管出血のある人
- c 身体の成長が著しい年長乳児や幼児
- d 月経血損失のある女性

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	正	正
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	正

問 1 6

貧血用薬(鉄製剤)に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 消化器系への副作用を軽減するためには、食前に服用することが望ましい。
- 2 貧血の症状がみられる以前から予防的に使用することが望ましい。
- 3 鉄不足によって貧血症状が生じている鉄欠乏性貧血のみ、改善を図ることができる。
- 4 服用により便が黒くなった場合は、直ちに使用を中止しなければならない。

問 1 7

外用痔疾用薬に含まれる成分とその作用に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

[成分]	[作用]
a クロタミトン ……………	局所麻酔作用
b ジフェンヒドラミン ……	抗ヒスタミン作用
c 酢酸プレドニゾロン ……	殺菌消毒作用
d 塩酸ナファゾリン ………	血管収縮作用

- 1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問 1 8

外用痔疾用薬に塩酸メチルエフェドリンを配合する目的として、正しいものはどれか。

- 1 抗炎症
- 2 止血
- 3 粘膜保護
- 4 鎮痛
- 5 殺菌消毒

問 1 9

内用痔疾用薬に用いられる成分のうち、止血効果を期待して用いられるものはどれか。

- 1 センナ
- 2 トウキ
- 3 ボタンピ
- 4 カイカ
- 5 カンゾウ

問 2 0

泌尿器用薬として用いられる漢方処方製剤のうち、カンゾウを含有しているものはどれか。

- 1 ごしゃじん きがん
牛車腎気丸
- 2 はちみじおうがん
八味地黄丸
- 3 ろくみがん
六味丸
- 4 ちよれいとう
猪苓湯
- 5 りゅうたんしゃかんと
竜胆瀉肝湯

問 2 1

婦人薬として用いられる漢方処方製剤に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 かみしょうようさん 加味逍遙散は、比較的体力がある人に用いられる。
- 2 さいこけいしかんきょうとう 柴胡桂枝乾姜湯の副作用に間質性肺炎がある。
- 3 しもつとう 四物湯は、月経不順、冷え症、血の道症に適すとされており、体の虚弱な人に適している。
- 4 とうかくじょうきとう 桃核承気湯は、胃腸が弱く下痢しやすい人に適している。

問 2 2

アレルギー用薬に用いられる成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 鼻炎用内服薬は、抗ヒスタミン成分とアドレナリン作動成分やコリン作動成分を組み合わせで配合されている。
- b グリチルリチン酸二カリウムは、皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として配合されている。
- c 塩酸フェニレフリンは、交感神経を抑制して血管を収縮させる。
- d ベラドンナ総アルカロイドは、鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として配合されている。

- 1 (a、 c) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (b、 d)

問 2 3

鼻に用いられる薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a スプレー式鼻炎用点鼻薬は、鼻腔内の鼻汁と混ざることにより、より効果が出て炎症を抑えるので、使用前には鼻をかまないほうが望ましい。
- b 塩酸テトラヒドロゾリンは、抗ヒスタミン成分として鼻粘膜の充血や腫れ^はを和らげる。
- c 一般用医薬品では、クロモグリク酸ナトリウムは、通常、抗ヒスタミン成分と組み合わせて配合される。
- d 鼻粘膜の痛みや痒み^{かゆ}を抑えることを目的として、リドカイン等の局所麻酔成分が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	正	誤

問 2 4

鼻に用いられる薬の殺菌消毒成分に関する記述について、()の中に入れるべき正しい字句はどれか。

鼻粘膜を清潔に保ち、細菌による二次感染を防止することを目的として、塩化セチルピリジニウム、塩化ベンゼトニウムのような殺菌消毒成分が配合されている場合がある。いずれも()で、黄色ブドウ球菌、溶血連鎖球菌(溶血性レンサ球菌)又はカンジダ等の真菌類に対する殺菌消毒作用を示す。

- 1 陰性界面活性成分
- 2 陽性界面活性成分
- 3 両性界面活性成分
- 4 非イオン性界面活性成分
- 5 アルコール性界面活性成分

問25

点眼薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の点眼薬は、目の腫れや痒み、緑内障の症状を改善する成分が配合されている。
- b 点眼後に、数秒間、まぶたを閉じ目頭を軽く押さえると、副作用が起こりやすくなるので避ける。
- c 点眼薬は、開封後は早めに使用し、長期間を経過したものは使用を避ける。
- d コンタクトレンズをしたままでの点眼は、添付文書に使用可能と記載されていない限り行わないことが望ましい。

1 (a、 b) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (c、 d)

問26

次の表は、ある点眼薬の成分の一覧である。

この薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

メチル硫酸ネオスチグミン	0.001%
マレイン酸クロルフェニラミン	0.01%
ビタミンB ₆ (塩酸ピリドキシン)	0.1%
アミノエチルスルホン酸(タウリン)	0.1%

- a メチル硫酸ネオスチグミンは、コリンエステラーゼの働きを促進し、毛様体におけるアセチルコリンの働きを助けて、目の調節機能を改善する効果を目的としている。
- b マレイン酸クロルフェニラミンは、鼻炎用点鼻薬と併用した場合、眠気が現れることがあるので注意を要する。
- c ビタミンB₆(塩酸ピリドキシン)は、末梢血管を拡張させる作用を期待して配合されている。
- d アミノエチルスルホン酸(タウリン)は、新陳代謝を促し、目の疲れを改善する効果が期待されている。

1 (a、 c) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (b、 d)

問27

クロモグリク酸ナトリウムに関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 肥満細胞からのセロトニン遊離を抑える作用を示し、目のアレルギー症状を緩和させる。
- b アレルギー性でない結膜炎等には無効である。
- c 目の調節機能を改善する効果も示す。
- d まれにアナフィラキシー様症状を生じることがある。

1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問28

消毒薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a エタノールは、器具類の消毒に用いられる。
- b オキシドールは、炭酸ガスの泡による物理的な洗浄効果を有する。
- c ポビドンヨードは、徐々にヨウ素が遊離して殺菌作用を示すように工夫されたものである。
- d 塩化ベンザルコニウムは、石鹼との混合によって殺菌消毒効果が高まる。

1 (a、 c) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (b、 d)

問29

外皮用薬に用いられる成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ヘパリン類似成分は、抗炎症作用や保湿作用も期待されるが、血液の凝固を促進させる作用もあるので、血栓症のある人には使用を避ける。
- b 打撲などの急性の腫れや熱感を伴う症状に対しては、冷感刺激成分が配合された外用鎮痛薬が適する。
- c 温感刺激成分を主薬とする貼付剤では、入浴後すぐに貼付することが望ましい。
- d 抗真菌成分が配合された一般用医薬品で、爪白癬に適用を持つものはない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問30

歯痛薬(外用)に用いられる成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 塩酸ジブカインは、知覚神経の伝達を遮断して痛みを鎮める。
- b カンフルは、知覚神経に冷感刺激を与えることにより鎮痛・鎮痒^{よう}効果を示す。
- c フェノールは、細菌の繁殖を抑えると同時に抗炎症・局所麻酔作用も現す。
- d テーカインは、抗炎症作用が期待される生薬成分である。

1 (a、 b) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (c、 d)

問31

歯槽膿漏^{そうのうろう}薬に用いられる成分のうち、出血を抑える作用が期待されるものはどれか。

- 1 グルコン酸クロルヘキシジン
- 2 ヒノキチオール
- 3 カルバゾクロム
- 4 アラントイン
- 5 カミツレ

問32

口内炎用薬に用いられる成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アクリノールは、患部からの細菌感染防止を目的に配合される。
- b シコンはムラサキの根を用いた生薬で、止血を目的に配合される。
- c アズレンスルホン酸ナトリウムは、ステロイド性の抗炎症成分として配合される。
- d グリチルレチン酸は、口腔粘膜の炎症を和らげるために配合される。

1 (a、 b) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (c、 d)

問33

ニコチンを有効成分とする禁煙補助剤(咀嚼^{そしゃく}剤)に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

禁煙補助剤によりニコチン離脱症状を軽減しながら、(a)その使用量を減らし、使用期限は(b)を目途とし、(c)を超える使用は避けることとされている。

	a	b	c
1	徐々に	1か月	3か月
2	徐々に	3か月	6か月
3	急激に	1週間	1か月
4	急激に	1か月	3か月
5	急激に	2か月	4か月

問34

たん^{たん}白質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の健康維持、神経機能の維持に最も重要なビタミンはどれか。

- 1 ビタミンB₁
- 2 ビタミンB₂
- 3 ビタミンB₅
- 4 ビタミンB₆
- 5 ビタミンB₁₂

問35

滋養強壮保健薬に用いられる成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a システインは、爪や肌などに存在するビタミンの一種で、しみ・そばかす・日焼けなどの色素沈着症の緩和に用いられる。
- b アミノエチルスルホン酸(タウリン)は、筋肉や脳、心臓、目、神経等、体のあらゆる部分に存在し、細胞が正常に機能するために重要な働きをする。
- c アスパラギン酸ナトリウムは、生体におけるエネルギーの産生効率を高めるとされ、骨格筋の疲労の原因となる乳酸の分解を促す働きをする。
- d グルクロノラク톤は、米油及び米胚芽油から見いだされた抗酸化作用を示す成分で、ビタミンEなどと組み合わせて配合される。

- 1 (a、 b) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (c、 d)

問36

漢方処方製剤に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

大柴胡湯だいさいことうや防風通聖散ぼうふうつうしょうさん、黄連解毒湯おうれんげどくとうは、まれに重篤な副作用として、(a)や(b)が起こることが知られている。

	a	b
1	肝機能障害	間質性肺炎
2	肝機能障害	アナフィラキシー様症状
3	間質性肺炎	アナフィラキシー様症状
4	無菌性髄膜炎	肝機能障害
5	無菌性髄膜炎	アナフィラキシー様症状

問37

次の生薬成分のうち、ハナトリカブトの塊根で、そのままでは毒性を示すので、加工して用いられるものはどれか。

- 1 ショウマ
- 2 カッコン
- 3 ボウフウ
- 4 サイコ
- 5 ブシ

問38

殺虫剤に用いられる成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 有機リン系殺虫成分としては、ジクロルボスやフェニトロチオンなどがある。
- b ピレスロイド系殺虫成分としては、ペルメトリンやフタルスリンなどがある。
- c カーバメイト系殺虫成分としては、メトプレンやジフルベンズロンなどがある。
- d 有機塩素系殺虫成分としては、ダイアジノンやトリクロルホンなどがある。

- 1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問39

次の成分のうち、衛生害虫の防除を目的とする忌避成分として最も効果的で、効果の持続性も高いとされるものはどれか。

- 1 ピリプロキシフェン
- 2 プロピタンホス
- 3 チオシアノ酢酸イソボルニル
- 4 ピペニルブトキサイド
- 5 ディート

問40

妊娠検査薬に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 検査の時期としては、月経予定日が推奨されている。
- 2 絨毛細胞が腫瘍化している場合は、妊娠していなくても陽性となることがある。
- 3 子宮外妊娠が生じている場合は、妊娠していても陰性となることがある。
- 4 尿中hCG(ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン)の検出反応は、温度の影響を受けることがある。

受 験 番 号				氏 名

平成 2 0 年度第 2 回登録販売者試験問題（午後）

（平成 21 年 2 月 1 日）

兵 庫 県

指示があるまで開いてはいけません。

【注意事項】

- 1 問題及び解答用紙に、受験番号(右寄せで記入)と氏名を記入してください。

(記入例)

受 験 番 号				氏 名
		4	5	兵庫 太郎

- 2 試験時間は、午後 1 時から 3 時までの 120 分間です。
- 3 問題は、3 項目 60 問で、1 ~ 27 ページまであります。
- 4 解答は、解答用紙の解答欄に鉛筆等で記入してください。
- 5 解答は、該当する答の番号を 1 つだけ記入してください。
2 つ以上記入したり、解答欄以外に記入したものは、採点されません。
- 6 解答を修正した場合は、必ず消しゴムであとが残らないように完全に消してください。
- 7 この試験の薬事法に係る記述は、薬事法の一部を改正する法律(平成 18 年法律第 69 号)による改正後の薬事法に基づいています。
- 8 この試験の医薬品の成分の表記は、厚生労働省作成の「試験問題の作成に関する手引き(平成 19 年 8 月)」に基づいています。

人体の働きと医薬品

問 1

消化器系に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 消化管は、口腔から肛門まで続く管である。
- b 消化とは、飲食物を消化管で吸収される形に分解することである。
- c 口腔における咀嚼によって消化管の内容物を細かくすることを化学的消化という。
- d 消化液に含まれる消化酵素の作用によって飲食物を分解することを機械的消化という。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	誤	正	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	誤	誤
5	正	正	誤	誤

問 2

歯に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 歯は、歯周組織によって上下の顎の骨に固定されている。
- b 歯頸(歯肉線のあたり)を境に口腔に露出する部分を歯髄という。
- c 歯冠の表面はエナメル質で覆われ、体で最も硬い部分となっている。
- d 歯の齧触が象牙質に達すると、神経が刺激されて、歯がしみたり痛みを感じるようになる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問3

胃に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 食道から内容物が送られてくると、その刺激に反応して胃壁の平滑筋が収縮し、容積が広がる。
- b 粘膜の表面には無数の微細な孔があり、胃腺^{せん}につながって塩酸(胃酸)のほかペプシノーゲン^{せん}を分泌している。
- c ペプシノーゲンは胃酸によって、デンプンを消化する酵素であるペプシンとなる。
- d 胃の内壁は粘膜で覆われて多くのひだをなしている。

1 (a、 c) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (b、 d)

問4

膵臓^{すい}に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 膵臓^{すい}は、血糖値を調節するホルモン(インスリン及びグルカゴン)等を血液中に分泌する。
- 2 膵臓^{すい}は、胃の後下部に位置する細長い臓器で、膵液^{すい}を空腸へ分泌する。
- 3 膵液^{すい}は、弱酸性である。
- 4 膵液^{すい}は、脂質を分解するアミロプシンなどの消化酵素を含んでいる。

問5

胆嚢^{のう}と肝臓に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 胆汁に含まれる胆汁酸塩(コール酸、デオキシコール酸等の塩類)は、水溶性ビタミンの吸収を助ける。
- b 腸内に放出された胆汁酸塩の大部分は、小腸で再吸収されて肝臓に戻される。
- c アルコールは、肝臓でアセトアルデヒドに代謝されたのち、さらに代謝されて酢酸となる。
- d アミノ酸が分解された場合等に生成する尿素は、体内に滞留すると有害な物質であり、肝臓においてアンモニアへと代謝される。

1 (a、 b) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (c、 d)

問 6

呼吸器系に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鼻腔の入り口(鼻孔)にある鼻毛は、空気中の塵、埃等を吸い込まないようにするフィルターの役目を果たしている。
- b 咽頭は、発声器としての役割もあり、咽頭上部にある声帯で呼気を振動させて声が発せられる。
- c 喉頭から肺へ向かう気道が左右の肺へ分岐するまでの部分を気管といい、そこから肺の中で複数に枝分かれする部分を気管支という。
- d 肺では、肺胞の壁を介して、心臓から送られてくる血液から二酸化炭素が肺胞気中に拡散し、代わりに酸素が血液中の赤血球に取り込まれるガス交換が行われる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	誤	誤

問 7

循環器系に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 心臓の内部は上部左右の心室、下部左右の心房の4つの空洞に分かれている。
- 2 血液が確実に一方向に流れるよう、心室には血液を取り込む側と送り出す側にそれぞれ弁がある。
- 3 静脈にかかる圧力は比較的低いいため、静脈の血管壁は動脈よりも薄い。
- 4 損傷した血管は、血管壁が収縮することで血流を減少させ、大量の血液の流出を防ぐと同時に、損傷部位に血小板が粘着、凝集して傷口を覆う。

問 8

脾臓の働きに関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

なお、2か所の(a)内はどちらも同じ字句が入る。

健康な(a)には柔軟性があるので脾臓内の網目構造をすり抜けられるが、古くなって柔軟性が失われた(a)は引っかかり、脾臓の組織に存在する(b)によって壊される。

	a	b
1	白血球	マクロファージ
2	白血球	ヘモグロビン
3	赤血球	アルブミン
4	赤血球	マクロファージ
5	赤血球	ヘモグロビン

問 9

泌尿器系に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 腎臓に入る動脈は細かく枝分かれして、毛細血管が小さな球状になった糸球体を形成する。
- b 腎臓には内分泌腺としての機能があり、骨髄における赤血球の産生を促進するホルモンを分泌する。
- c 副腎皮質ホルモンの一つであるアルドステロンは、カリウムの排泄を抑制する作用がある。
- d 膀胱の出口にある膀胱括約筋が縮むと、同時に膀胱壁の排尿筋が弛緩し、尿が尿道へと押し出される。

- 1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問 1 0

目に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 水晶体の前には虹彩があり、瞳孔を散大・縮小させて眼球内に入る光の量を調節している。
- b 水晶体は、その周りを囲んでいる硝子体の収縮・弛緩によって、近くの物を見る時には丸く厚みが増し、遠くの物を見る時には扁平になる。
- c 涙液は起きている間は絶えず分泌されており、目頭の内側にある小さな孔(涙点)から涙道に流れこんでいる。
- d 目を使う作業を続けると、眼筋の疲労や涙液の供給不足等を生じる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

問 1 1

耳に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 蝸牛は渦巻き形をした器官で、内部はリンパ液で満たされている。
- 2 小さな子供では、耳管が細くて水平に近く、鼻腔からウイルスや細菌の感染が起こりやすい。
- 3 乗り物酔い(動揺病)は、乗り物に乗っているとき反復される加速度刺激や動揺によって、聴覚情報が混乱して生じる身体の変調である。
- 4 外耳道にある耳垢腺(汗腺の一種)や皮脂腺からの分泌物に、埃や外耳道上皮の老廃物などが混じって耳垢(耳あか)となる。

問 1 2

外皮系に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 角質層は、線維芽細胞とその細胞で産生された線維性の蛋白質(コラーゲン、フィブリン、エラスチン等)からなる結合組織の層で、皮膚の弾力と強さを与えている。
- b 皮下脂肪層は、外気の熱や寒さから体を守るとともに、衝撃から体を保護するほか、脂質としてエネルギー源を蓄える機能がある。
- c 皮脂は、皮膚を潤いのある柔軟な状態に保つとともに、外部からの異物に対する保護膜としての働きがある。
- d 汗腺であるアポクリン腺は全身に分布し、体温調節のための汗を分泌する。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	誤	誤

問 1 3

中枢神経系に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 中枢神経系は脳と脊髄から構成される。
- 2 脳の血管は末梢に比べて物質の透過に関する選択性が低い。
- 3 脊髄には、心拍数を調節する心臓中枢、呼吸を調節する呼吸中枢等がある。
- 4 延髄は脊椎の中にあり、脳と末梢の間で刺激を伝えるほか、末梢からの刺激の一部に対して脳を介さずに刺激を返す場合があり、これを延髄反射と呼ぶ。

問 1 4

末梢神経系に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 末梢神経系は、体性神経系と自律神経系に分類される。
- b 副交感神経系は、体が闘争や恐怖等の緊張状態に対応した態勢をとるように働く。
- c 心臓や胃、腸は、交感神経系と副交感神経系が支配している。
- d 副交感神経の神経伝達物質は、アセチルコリンである。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	誤
2	誤	正	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	正
5	正	誤	正	誤

問 1 5

医薬品の吸収に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 全ての内服薬は、有効成分が消化管で吸収された後、循環血液中に入って全身作用の薬効をもたらす。
- 2 粘膜に適用する医薬品は、全身作用をもたらすことを目的とするものはない。
- 3 内服薬の吸収量や吸収速度は、消化管の内容物や他の医薬品の作用によって影響を受けやすい。
- 4 皮膚に適用する全ての医薬品は、有効成分が皮膚の表面でのみ作用する。

問16

医薬品の吸収等に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

なお、2か所の(b)内はどちらも同じ字句が入る。

消化管で吸収された医薬品の成分は、消化管の毛細血管から血液中へ移行する。その血液は(a)を經由して(b)に入るので、吸収された成分は、循環血流に乗って全身へ巡る前に、(b)を通過する際に酵素の働きにより(c)される。

	a	b	c
1	門脈	肝臓	代謝
2	門脈	肝臓	排泄
3	門脈	腎臓	代謝
4	リンパ管	腎臓	代謝
5	リンパ管	腎臓	排泄

問17

医薬品の剤型に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 口腔内崩壊錠は、口の中で比較的速やかに溶けるため、水なしで服用することができる。
- b 軟膏剤やクリーム剤は、有効成分が適用部位に止まりやすいことが特長であり、一般的には、適用部位を水から遮断する場合には軟膏剤よりもクリーム剤を用いる。
- c チュアブル錠は、胃、腸等で崩壊して、薬効をもたらす剤型であるため、口中で噛み砕いて服用してはならない。
- d 内用液剤では苦味やにおいが強く感じられる場合があるので、小児等に用いられる医薬品の場合には、白糖等の糖類を混ぜたシロップ剤とする場合が多い。

- 1 (a、 b) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (c、 d)

問 1 8

皮膚粘膜眼症候群に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 高熱(38 以上)を伴って、発疹・発赤、火傷様の水泡等の激しい症状が、比較的短期間に全身の皮膚、口、目の粘膜に現れる病態である。
- b 発生機序の詳細は明確にされている。
- c 多臓器障害の合併症等により致命的な転帰をたどることがある重篤な皮膚疾患である。
- d ライ症候群とも呼ばれている。

1 (a、 c) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (b、 d)

問 1 9

黄疸に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

なお、2か所の(a)内はどちらも同じ字句が入る。

黄疸とは、(a)が胆汁中へ排出されず(b)に滞留して、皮膚や白目が黄色くなる現象であり、また、過剰な(a)が尿中に排出され、尿の色が(c)なることもある。

	a	b	c
1	ヘモグロビン	血液中	濃く
2	ヘモグロビン	リンパ液中	薄く
3	ビリルビン	血液中	濃く
4	ビリルビン	リンパ液中	薄く
5	ビリルビン	血液中	薄く

問 2 0

医薬品により胃腸に現れる副作用に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 消化性潰瘍とは、胃や十二指腸の粘膜が障害され、組織が損傷した状態である。
- 2 消化性潰瘍による消化管出血に伴い、糞便が白くなるなどの症状を生じる。
- 3 腸内容物の通過が阻害された状態をイレウスという。
- 4 腸閉塞様症状は、小児や高齢者のほか、普段から便秘傾向のある人は、発症のリスクが高いとされている。

薬事関係法規・制度

問 1

次の記述について、薬局又は医薬品の販売業の許可が必要でないものはどれか。

- 1 医薬品の製造販売業者以外の者が、業として医薬品を薬局開設者に販売する。
- 2 医薬品の製造業者が、業としてその製造した医薬品を他の医薬品製造業者に販売する。
- 3 医薬品の製造販売業者が、一般の生活者に対して業として一般用医薬品を販売する。
- 4 医薬品の製造販売業者又は製造業者以外の者が、業として一般用医薬品を授与の目的で陳列する。

問 2

薬局又は医薬品の販売業の許可に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 薬局開設者又は医薬品の販売業者は、医薬品の露天販売を行うことができる。
- b 薬局又は医薬品の販売業の許可を受ける前であっても、開店準備としてその店舗に医薬品を陳列することができる。
- c 医薬品の販売業の許可については、薬事法第 25 条で店舗販売業、配置販売業及び卸売販売業の 3 種類に分けられている。
- d 卸売販売業者は、業として一般の生活者に対して直接医薬品の販売を行うことは認められていない。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問3

薬局に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 薬局は、薬事法において「薬剤師が販売又は授与の目的で調剤の業務を行う場所」と定義されているため、一般用医薬品を販売することができない。
- b 調剤を実施する薬局は、医療法において医療提供施設として位置づけられている。
- c 薬局の管理者は、薬剤師又は登録販売者でなければならない。
- d 薬剤師でなければ薬局の開設許可を受けることができない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	誤	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問4

薬局又は店舗販売業に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 店舗販売業の許可は、その許可を受けようとする者の住所地の都道府県知事(その住所地が保健所を設置する市又は特別区の区域にある場合においては、市長又は区長。)が与える。
- 2 薬局の管理者はその薬局を実地に管理する義務があるが、店舗販売業の店舗管理者にはその義務はない。
- 3 薬剤師が従事している店舗販売業であっても、その店舗に薬局を付した名称を使用することはできない。
- 4 店舗販売業者が配置による医薬品販売を行おうとする場合は、別途、配置販売業の許可が必要であるが、薬局開設者はあらかじめ許可を取得することなく医薬品を配置販売することができる。

問5

店舗販売業に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 店舗管理者は、薬剤師又は登録販売者でなければならない。
- 2 店舗販売業者は、一般用医薬品のうち第二类医薬品については、登録販売者に販売させてはいけない。
- 3 薬剤師が従事している店舗販売業では、医師が発行した処方せんに基づき調剤することができる。
- 4 店舗販売業者は、一般用医薬品のほか、医療用医薬品を販売することができる。

問6

店舗販売業の許可に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 店舗販売業の許可を受けようとする店舗が必要な構造設備を備えていないときは、許可を与えられないことがある。
- b 店舗販売業の許可を受けようとする者が薬事に関する法令等に違反し一定期間を経過していないときは、許可を与えられないことがある。
- c 店舗販売業の許可を受けようとする者が麻薬の中毒者であるときは、許可を与えられないことがある。
- d 店舗販売業の許可を受けようとする店舗において医薬品の販売又は授与の体制が厚生労働省令で定める基準に適合しないときは、許可を与えられないことがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	正	正	正	正
5	誤	誤	正	正

問7

配置販売業に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 配置販売業の許可を受ければ、医療用医薬品及び一般用医薬品を配置により販売又は授与することができる。
- b 区域管理者は、薬剤師又は登録販売者でなければならない。
- c 配置販売業の許可を受けようとする者は、配置しようとする区域にかかわらず、その者の住所地の都道府県知事の許可を受けなければならない。
- d 配置販売業者の配置員は、厚生労働大臣が発行する身分証明書の交付を受け、医薬品の配置販売に従事しなければならない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	正	正	正	正
5	誤	誤	正	正

問 8

次の業態のうち、特定の購入者の求めに応じて一般用医薬品(第一類医薬品、毒薬及び劇薬を除く。)を開封して分割販売することができないものの組み合わせはどれか。

- a 薬局
- b 薬剤師が従事する配置販売業
- c 登録販売者のみが従事する店舗販売業
- d 登録販売者のみが従事する配置販売業

- 1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

問 9

薬局又は医薬品の販売業において、一般用医薬品を販売する際の情報提供に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 店舗販売業者は、第三類医薬品を販売する場合、購入者側からの相談の有無に関わらず、医薬品の販売に従事する薬剤師又は登録販売者に情報提供をさせる義務はない。
- b 薬局開設者は、第二類医薬品を販売する場合、登録販売者ではなく医薬品の販売に従事する薬剤師に情報提供させなければならない。
- c 配置販売業者は、第一類医薬品を配置販売する場合、購入者から説明を要しない旨の意思表示があったときを除き、医薬品の販売に従事する薬剤師に厚生労働省令で定める事項を記載した書面を用いて、情報提供させなければならない。
- d 店舗販売業者は、第一類医薬品を販売する場合、購入者から説明を要しない旨の意思表示があったときを除き、医薬品の販売に従事する薬剤師に厚生労働省令で定める事項を記載した書面を用いて、情報提供させなければならない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	正	正	正	正
5	誤	誤	正	正

問 1 0

薬事法第 2 条第 1 項に規定されている医薬品の定義について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

(定義)

第二条 この法律で「医薬品」とは次に掲げる物をいう。

- 一 日本薬局方に収められている物
- 二 人又は動物の疾病の(a) 治療又は予防に使用されることが目的とされる物であつて、機械器具、歯科材料、医療用品及び衛生用品(以下「機械器具等」という。)でないもの((b) を除く。)
- 三 人又は動物の身体の構造又は機能に影響を及ぼすことが目的とされている物であつて、機械器具等でないもの((c) を除く。)

	a	b	c
1	検査	化粧品	医薬部外品及び化粧品
2	診断	医薬部外品	医薬部外品及び化粧品
3	診断	化粧品	医薬部外品
4	診断	医薬部外品	化粧品
5	検査	化粧品	医薬部外品

問 1 1

「医薬品の範囲に関する基準」により、医薬品に該当する要素として示されるものの正誤について、正しい組み合わせはどれか。

(注) : 「医薬品の範囲に関する基準」は、『昭和 46 年 6 月 1 日付け薬発第 476 号厚生省薬務局長通知「無承認無許可医薬品の指導取締りについて」の別紙。最終改正：平成 19 年 4 月 17 日付け薬食発第 0417001 号厚生労働省医薬食品局長通知』をいう。

- a 医薬品的な^{ぼう}効能効果が標榜又は暗示されていること。
- b 成分本質(原材料)が、専ら医薬品として使用される成分本質を含むこと。(食品添加物として認められる場合を除く。)
- c アンブル剤や舌下錠、口腔内噴霧剤等、医薬品的な形状であること。
- d 服用時期、服用間隔、服用量等の医薬品的な用法用量の記載があること。(調理のために使用方法、使用量等を定めている場合を除く。)

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	誤	誤	誤

問 1 2

医薬品及び食品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 特別用途食品とは、健康増進法の規定に基づき「特別の用途に適する旨の表示」の許可を受けた食品であり、原則として、一般生活者が医薬品としての目的を有するものであるとの誤った認識を生じるおそれがないものとされている。
- b 食品衛生法で食品とは、医薬品及び医薬部外品以外のすべての飲食物をいう。
- c 栄養機能食品は、機能表示に関して、厚生労働大臣の個別の審査を受ける必要がある。
- d 健康食品という言葉は、法令で定義された用語ではなく、薬事法や食品衛生法等における取扱いは、保健機能食品以外の一般食品と変わるところはない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 1 3

医薬品等に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 衛生害虫類以外の害虫の防除のために使用されるものは、医薬品に該当する。
- 2 一般用医薬品は、医師の処方せん若しくは指示によって使用されることを目的としたものである。
- 3 人の身体の構造若しくは機能に影響を及ぼすことを目的とするものは、化粧品に含まれない。
- 4 化粧品は、医薬品的な^{ぼう}効能効果を表示・標榜することができる。

問 1 4

医薬品等の製造販売又は販売に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 薬局や医薬品の販売業において、医薬品と併せて、医薬部外品、化粧品を販売する場合には、医薬品と他の物品を区別して貯蔵又は陳列しなければならない。
- b 化粧品又は医薬部外品を業として販売する場合は、医薬品の販売業の許可が必要である。
- c 医薬部外品及び化粧品を業として製造販売する場合は、原則として、品目ごとに承認を得る必要がある。
- d 化粧品を業として製造販売する場合には、化粧品の製造販売業の許可が必要である。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	正	正	正	正
5	誤	誤	正	正

問 1 5

一般用医薬品のリスク区分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 店舗販売業者は、一般用医薬品を陳列する場合には、第一類医薬品、第二類医薬品又は第三類医薬品の区分ごとに陳列しなければならない。
- b 第二類医薬品とは、その副作用により日常生活に支障を来す程度の健康被害が生ずるおそれがある医薬品のうち、その使用に関し特に注意が必要なものとして厚生労働大臣が指定するものである。
- c 一般用医薬品の製造販売を行う者は、各製品の外箱等にリスク区分ごとに定められた事項を記載することが義務づけられている。
- d 新一般用医薬品は、第一類医薬品に分類され、第二類医薬品又は第三類医薬品に分類が見直されることはない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 1 6

毒薬、劇薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 毒薬及び劇薬を貯蔵、陳列する場所には、かぎを施さなければならない。
- b 毒薬は、直接の容器又は被包に、黒地に赤枠をもって、当該医薬品の品名及び「毒」の文字が赤字で記載されていなければならない。
- c 毒薬又は劇薬を、14歳未満の者その他安全な取扱いに不安のある者に交付することは禁止されている。
- d 劇薬は、直接の容器又は被包に、白地に赤枠をもって、当該医薬品の品名及び「劇」の文字が赤字で記載されていなければならない。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	正

問 1 7

薬事法第 46 条で、毒薬、劇薬を一般の生活者に対して販売又は譲渡する際には、当該医薬品を譲り受ける者から、文書の交付を受けなければ、これを販売し、又は授与してはならないと規定しているが、次のうち、この文書に記載すべき事項はどれか。

- 1 保管場所
- 2 使用場所
- 3 譲受人の年齢
- 4 譲受人の職業
- 5 譲受人の本籍地

問 1 8

一般用医薬品の直接の容器又は直接の被包に記載しなければならない事項について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 製造番号又は製造記号
- b 重量、容量又は個数等の内容量
- c 製造業者の氏名又は名称及び住所
- d 問い合わせ先の電話番号

- 1 (a、 b) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (c、 d)

問 19

医薬品の広告に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 チラシやパンフレット等において、医薬品と、いわゆる健康食品を同一紙面に掲載することは禁止されている。
- 2 承認されている効能効果のうち、一部のみを抽出して広告を行うことは、ある疾病や症状に対して特に優れた効果を有するかのような誤認を与えるおそれがあり、不適當である。
- 3 「天然成分を使用しているので副作用がない」「いくら飲んでも副作用がない」といった事実と反する広告表現は、過度の消費や乱用を助長するおそれがあるだけでなく、虚偽誇大な広告にも該当する。
- 4 一般用医薬品と同じ有効成分を含有する医療用医薬品の効能効果をそのまま標榜^{ぼう}することは、承認されている内容を正確に反映した広告といえない。

問 20

医薬品の販売に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 「使用前・使用后」を示した図面・写真等を掲げることは、医薬品の有効性又は安全性について、それが確実であることを保証する表現であり、虚偽又は誇大広告と見なされる。
- b 店舗販売業者は、許可を受けた店舗以外の場所のイベント会場で医薬品を販売する場合は、法第 37 条第 1 項(販売方法の制限)に違反しない。
「イベント会場は、許可を受けていません。」と、口頭で補足説明を行った。
- c 医薬品の効能・効果について、医師がこれを保証したものと誤解されるおそれがある記事を広告し記述し又は流布することは、虚偽又は誇大広告に該当する。
- d 薬事法第 66 条(誇大広告等)及び第 68 条(承認前の医薬品等の広告の禁止)は、広告等の依頼主のみが対象となる。

- 1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

医薬品の適正使用・安全対策

問 1

一般用医薬品の添付文書に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 添付文書の販売名の上部に、添付文書の必読及び保管に関する文言が記載されている。
- b 添付文書の重要な内容が変更された場合、改訂された箇所を明示すれば改訂年月を記載する必要はない。
- c 一般用医薬品を使用している人が医療機関を受診する際、その添付文書を持参し、医師や薬剤師に見せて相談することが重要である。
- d 添付文書への記載が義務づけられている事項が、その容器に記載されている場合は、その事項について添付文書への記載は不要である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 2

一般用医薬品の添付文書に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 用法及び用量欄には、年齢区分並びに1日の用量及び使用回数についてわかりやすく記載しなければならない。
- b 成分及び分量欄には、有効成分及び香料など添加物として配合される成分の名称及び分量が記載しなければならない。
- c その医薬品の適用となる症状等に関連して、医薬品の使用のみに頼ることなく、症状の予防・改善につながる事項について一般の生活者に分かりやすく記載されていることがある。
- d 保管及び取扱い上の注意として「直射日光の当たらない涼しい場所に保管すること」と記載されている一般用医薬品は、全て冷蔵庫に保管することが適当である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	誤	正
4	誤	誤	正	誤

5 | 誤 正 正 正

問3

一般用医薬品の添付文書における使用上の注意のうち、「してはいけないこと」の欄に記載される項目について、誤っているものはどれか。

- 1 次の人は使用(服用)しないこと
- 2 次の部位には使用しないこと
- 3 医師(又は歯科医師)の治療を受けている人は使用しないこと
- 4 本剤を使用(服用)している間は、次の医薬品を使用(服用)しないこと

問4

医薬品の成分と一般用医薬品の添付文書における「次の人には使用(服用)しないこと」欄の記述との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- | [成分] | [「次の人には使用(服用)しないこと」欄] |
|----------------------|-----------------------|
| a アミノ安息香酸エチル …………… | 15歳未満の小児 |
| b カゼイン …………… | 牛乳によるアレルギーを起こしたことがある人 |
| c 塩酸プソイドエフェドリン …………… | 高血圧の診断を受けた人 |
| d アスピリン …………… | 日常的に不眠の人 |
- 1 (a、 c) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (b、 d)

問5

一般用医薬品の表示に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 購入者が製品を開封した後、添付文書を見て初めて自分にとって適当な製品でなかったことが分かるといった事態を防ぐため、添付文書に記載したことであっても重ねて外箱にも表示することがある。
- b 使用期限の表示は、適切な保存条件の下で製造後3年を超えて性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品であっても、法的に表示が義務づけられている。
- c 表示された「使用期限」は、未開封状態で保管された場合に品質が保持される期限であり、いったん開封されたものについては記載されている期日まで品質が保証されない場合がある。
- d 一般用医薬品には薬事法以外の法令に基づいた表示がなされることはない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問6

独立行政法人医薬品医療機器総合機構の「医薬品医療機器情報提供ホームページ」に掲載されている情報に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 企業や医療機関等から報告された、医薬品による副作用が疑われる症例情報
- b 新医薬品(新一般用医薬品を含む)等の承認情報
- c 医薬品等の製品回収に関する情報
- d 医薬品等の「使用上の注意」の改訂情報

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	正	正	正

問7

医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に関する記述について、正しいものはどれか。

なお、記述中の年月には誤りはないものとする。

- 1 1967年3月より、すべての病院から厚生省(当時)が直接副作用報告を受ける制度としてスタートした。
- 2 1978年8月より、すべての薬局で把握した副作用事例等について、報告が義務化された。
- 3 2002年7月には、医師や薬剤師等の医薬関係者による副作用等の報告が義務化された。
- 4 2006年6月の薬事法改正により、登録販売者制度が導入されたが、登録販売者には本制度に基づく副作用等の報告義務はない。

問8

企業からの副作用等の報告制度に関する記述について、()の中に入れるべき正しい字句の組み合わせはどれか。

製薬企業はその製造販売し、又は承認を受けた医薬品について、その副作用と疑われる健康被害のうち、使用上の注意から予測できない重篤な症例(死亡を除く。)の発生を知ったときは、(a)以内に(b)に報告することが義務づけられている。

なお、法第77条の3第2項により、(c)は製薬企業等が行う情報収集に協力するよう努めなければならないこととされている。

	a	b	c
1	30日	都道府県知事	医薬関係者
2	30日	厚生労働大臣	医薬関係者
3	30日	都道府県知事	医薬品の購入者
4	15日	厚生労働大臣	医薬品の購入者
5	15日	厚生労働大臣	医薬関係者

問 9

一般用医薬品の副作用情報等の評価及び措置に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 収集された副作用等の情報について、医薬品の製造販売業者では評価及び検討は行われない。
- 2 各制度により集められた副作用情報については、独立行政法人医薬品医療機器総合機構において専門委員の意見を聴きながら調査検討が行われる。
- 3 薬事・食品衛生審議会は、副作用等の情報の調査検討結果に基づき、製造及び製造販売の中止または製品の回収などの安全対策上必要な措置を講ずる。
- 4 独立行政法人医薬品医療機器総合機構は、副作用等の情報の調査検討結果に基づき、使用上の注意の改訂の指示などの安全対策上必要な措置を講ずる。

問 10

医薬関係者が医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に基づいて行う報告及び副作用に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品等によるものと疑われる、身体の変調・不調、日常生活に支障を来す程度の健康被害(死亡を含む。)について報告が求められている。
- b 安全対策上必要があると認めるときは、医薬品の過量使用や誤用等によるものと思われる健康被害についても報告する必要がある。
- c 医薬品の副作用は、その医薬品の使用上の注意に記載されているものだけである。
- d 医薬品の副作用の症状は、その医薬品の適応症状とは明らかな違いがあり、見分けが付きやすい。

- 1 (a、 b) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (c、 d)

問 11

医薬関係者が医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に基づいて行う報告に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 報告様式は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構の「医薬品医療機器情報提供ホームページ」より入手できる。
- 2 報告様式の記入欄すべてに記入しなければならない。
- 3 報告期限は定められていない。
- 4 報告者に対しては、安全性情報受領確認書が交付される。

問 1 2

医薬品副作用被害救済制度等に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品副作用被害救済制度の給付の請求は、厚生労働省に行う。
- b 医薬品副作用被害救済制度の医療費の給付は、副作用の原因となった医薬品を製造販売した製薬企業から直接行われる。
- c 救済給付業務に必要な費用のうち、給付費については、製薬企業から年度ごとに納付される一般拠出金、付加拠出金が充てられている。
- d 生物由来製品を介した感染等による健康被害の迅速な救済を図ることを目的とした「生物由来製品感染等被害救済制度」も設けられている。

- 1 (a、 b) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (c、 d)

問 1 3

医薬品副作用被害救済制度の給付に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

健康被害を受けた本人(又は家族)の給付請求を受けて、その健康被害が医薬品の副作用によるものかどうか、医薬品が適正に使用されたかどうかなど、医学的薬学的判断を要する事項について(a)の諮問・答申を経て、(b)が判定した結果に基づいて、各種給付が行われる。

	a	b
1	薬事・食品衛生審議会	厚生労働大臣
2	医薬品副作用被害救済審議会	厚生労働大臣
3	薬事・食品衛生審議会	請求人の住所地の都道府県知事
4	医薬品副作用被害救済審議会	請求人の住所地の都道府県知事
5	薬事・食品衛生委員会	請求人の住所地の都道府県知事

問 1 4

医薬品副作用被害救済制度の給付の種類のうち、定額給付でないものはどれか。

- 1 医療費
- 2 医療手当
- 3 障害年金
- 4 遺族年金
- 5 葬祭料

問 1 5

医薬品副作用被害救済制度における遺族一時金に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

(a)が医薬品の副作用により死亡した場合に、その遺族に対する(b)等を目的として給付されるものである。

	a	b
1	生計維持者	生活の立て直し
2	生計維持者	見舞
3	生計維持者	慰謝料
4	生計維持者以外の人	生活の立て直し
5	生計維持者以外の人	見舞

問 1 6

医薬品 P L センターに関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品副作用被害救済制度の対象とならないケースのうち、製品不良など、製薬企業に損害賠償責任がある場合には、「医薬品 P L センター」への相談が推奨される。
- b 日本製薬団体連合会において、平成 7 年 7 月の製造物責任法(平成 6 年法律第 85 号)の施行と同時に開設された。
- c 医薬品、医薬部外品、化粧品及び医療機器に関する苦情について、申立ての相談を受け付けている。
- d 消費者が苦情について製造販売元の企業と交渉するに当たって、裁判による解決に導くことを目的としている。

1 (a、 b) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (c、 d)

問 1 7

一般用医薬品の使用による医薬品副作用被害救済制度の給付の請求に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医療費の請求期限は、医療費の支給の対象となる費用の支払いが行われたときから 10 年以内である。
- b 障害年金の請求期限は、2 年以内である。
- c 給付の請求には、医師の診断書、要した医療費を証明する書類(領収書等)などのほか、その医薬品を販売等した薬局開設者、医薬品の販売業者の作成した販売証明書等が必要である。
- d 医薬品の副作用であるかどうか判断がつかない場合でも、給付請求を行うことは可能である。

1 (a、 b) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (c、 d)

問 1 8

次の記述について、医薬品副作用被害救済制度の救済給付の対象となるものの組み合わせはどれか。

なお、いずれの場合も添付文書や外箱等に記載されている用法・用量、使用上の注意に従って使用されたものとする。

- a 副作用による健康被害が、医療機関での治療を要せずに寛解した場合
- b 副作用により日常生活に著しい制限を受ける程度以上の障害が残った場合
- c 副作用による疾病のため入院治療が必要と認められる場合であるが、やむをえず自宅療養を行った場合
- d 個人輸入により入手された医薬品の副作用による疾病のため、入院治療が行われた場合

1 (a、 b) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (c、 d)

問 1 9

医薬品の適正使用及び薬物乱用防止に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 保健衛生の維持向上に貢献することを目的とし、毎年 10 月 17 日～23 日の 1 週間を「薬と健康の週間」として、広報活動やイベント等が実施されている。
- 2 青少年では、薬物乱用の危険性に関する認識や理解が必ずしも十分でなく、好奇心から身近に入手できる薬物を興味本位で乱用することがある。
- 3 薬物乱用や薬物依存は、違法薬物(麻薬、覚せい剤、大麻等)によるものであり、一般用医薬品によっては生じない。
- 4 薬物乱用は、乱用者自身の健康を害するだけでなく、社会的な弊害を生じるおそれ大きい。

問 2 0

医薬品の安全対策に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。
なお、記述中の年月及び症例数には誤りはないものとする。

- a アンブル剤は他の剤型(錠剤、散剤等)に比べて吸収が速く、通常用量でも副作用を生じやすいことが確認されたため、1965 年、厚生省(当時)より関係製薬企業に対し、アンブル入りかぜ薬製品の回収が要請された。
- b 小柴胡湯しょうさいことうとインターフェロン製剤の併用を禁忌とする使用上の注意の改訂後も、慢性肝炎患者が小柴胡湯しょうさいことうを使用して間質性肺炎を発症し、死亡を含む重篤な転帰に至った例もあったことから、1996 年 3 月、緊急安全性情報が出された。
- c 2003 年 5 月までに、一般用かぜ薬の使用によると疑われる間質性肺炎の発生事例が、計 26 例報告された。厚生労働省では、同年 6 月、一般用かぜ薬全般につき使用上の注意の改訂を指示することとした。
- d 2003 年 8 月までに、塩酸フェニルプロパノールアミン(P P A)が配合された一般用医薬品による脳出血等の副作用症例が複数報告されたため、厚生労働省は関係製薬企業等に対して、P P A 含有医薬品の販売中止を命令した。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	正	正	誤

午 前

平成 2 0 年度第 2 回登録販売者試験 正答

兵庫県

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問 1 0
3	4	1	4	4	2	3	4	3	4
問 1 1	問 1 2	問 1 3	問 1 4	問 1 5	問 1 6	問 1 7	問 1 8	問 1 9	問 2 0
1	3	5	5	2	3	4	1	3	2

主な医薬品とその作用

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問 1 0
4	4	4	3	1	4	3	1	1	3
問 1 1	問 1 2	問 1 3	問 1 4	問 1 5	問 1 6	問 1 7	問 1 8	問 1 9	問 2 0
5	3	2	1	3	3	3	2	4	5
問 2 1	問 2 2	問 2 3	問 2 4	問 2 5	問 2 6	問 2 7	問 2 8	問 2 9	問 3 0
2	4	3	2	4	4	3	1	4	1
問 3 1	問 3 2	問 3 3	問 3 4	問 3 5	問 3 6	問 3 7	問 3 8	問 3 9	問 4 0
3	2	2	4	3	1	5	1	5	1

午後

平成20年度第2回登録販売者試験 正答

兵庫県

人体の働きと医薬品

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10
5	2	4	1	3	2	1	4	1	1

問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18	問19	問20
3	3	1	4	3	1	2	1	3	2

薬事関係法規・制度

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10
2	4	4	3	1	4	2	3	5	2

問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18	問19	問20
1	2	3	1	4	4	4	1	1	2

医薬品の適正使用・安全対策

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10
解なし	4	3	3	3	5	3	5	2	1

問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18	問19	問20
2	4	1	1	5	1	4	3	3	5